

高校野球のマナーとルールを学ぼう (第32回)



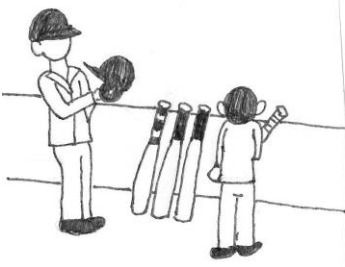
一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えしていきます。

マナー編 大切な道具・防具の点検

試合前に審判がベンチに出向いてバットやヘルメットを点検しているようですが…。

金属バットやヘルメットは歪みや変形・傷や亀裂の有無、何よりも製品安全協会のSGマークを確認します。捕手の防具についても同様です。「安全」と認められなければ大会本部で預かり、試合後に返却しています。



今夏の兵庫県大会では、「使用可能なヘルメットが4個」という極端な不備が見受けられました。大切な扱いと日頃の点検を励行しましょう。また、捕手のレガーズなど、土の汚れが付いたままでは申し訳ない限りです。防具は身体の一部となり身を守ってくれるもの。粗末な扱いは決して許されません。

なお、捕手の用具として「急所カップ」も口頭で確認していますが、準備しなかったり忘れてたり…のないように注意してください。不注意はマナー違反なのです。

ルール編 両耳ヘルメットの着用

規則1・16の高校野球での適用要旨

- (a) 打撃中および走者として塁に出ているときは、必ず野球用ヘルメットをかぶる。
- (b) 打撃に際しては両耳フラップヘルメットを着用する。
- (d) 捕手が守備についているときは、捕手用の防護用ヘルメットを着用する。
- (e) ベースコーチがコーチボックスにいるときには、防護用のヘルメットを着用する。

試合中の打者、次打者、走者、捕手にはそれぞれに所定のヘルメット着用が従来から義務付けられています。2011年度の規則改正では、新たにベースコーチの着用が加えられました。以上は規則1・16(a)～(e)の条項ですが、最後に条項(f)として、「**バットボーイ、ボールボーイまたはバットガール、ボールガールは、その仕事に携わっているときは、防護用の両耳フラップヘルメットを着用していなければならない。**」との規定があることを確認してください。

ボールボーイに関しては、試合の運営スタッフとして大会本部が準備したものを使用することも徹底されています。しかし、バットボーイは控え選手の役割となるため、着用されていないケースが見受けられるのではないのでしょうか。

『高校野球特別規則3』では、「打者、走者およびベースコーチ、バットボーイ、ボールボーイは、必ず両耳付きヘルメット(SGマークつき)を着用しなければならない。」と規定しています。規則を正しく理解し実行することは、事故を未然に防ぐことでもあるのです。

